

令和 3 年 5 月 11 日現在

機関番号：34402

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02303

研究課題名（和文）A. ストロークの興業にみる音楽マネジメントの近代

研究課題名（英文）Awsay Strok and his music managements in modern Asia

研究代表者

井口 淳子（IGUCHI, JUNKO）

大阪音楽大学・音楽学部・教授

研究者番号：50298783

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：1910年代から1950年代にかけて、アジアに欧米の世界的音楽家やダンサー、オペラ団などを招き、のべおよそ70回のアジアツアーを実現させた興行主、Awsay Strok（1875-1956）について、その生涯とアジアツアーの実態を明らかにした。彼の生地や生年をラトヴィアで調査し、アジアツアーについては上海発行の外国語新聞をもとに、日時、場所、公演内容などを明らかにした。さらに日本公演については大阪音楽大学所蔵のプログラムを整理し、日英二か国語のウェブサイト公開した。URL:<https://ongakugaku2.wixsite.com/strok/>

研究成果の学術的意義や社会的意義

1910年代から戦後にかけて世界的音楽家やダンサーの「アジアツアー」を実施し、アジア各国の洋楽受容に大きな役割を果たした興行主、Awsay Strok(1875-1956)の実像とマネジメントの実態を明らかにした。また、これまで不明な点が多かった彼の生涯と戦前戦後のアジアツアーを紹介する日英二か国語のウェブサイトを開設し、国内外にストロークの実像とマネジメント活動の実態を紹介することができた。このウェブサイトを通じて国境を越えた興行、音楽マネジメントの実態を広く発信することが可能になった。

研究成果の概要（英文）：This study clarifies the life of Awsay Strok (1875-1956), an impresario who invited world-famous Western musicians, dancers, and opera company to Asia from the 1910s to the 1950s, and realized a total of about 70 Asian tours.

I conducted research in Latvia on his birthplace and year of birth, which were previously unknown, and clarified the date, place, and content of his Asian tours based on foreign language newspapers published in Shanghai. In addition, for the Japan tours the programs in the collection of Osaka College of Music was organized and published on the bilingual website. URL:<https://ongakugaku2.wixsite.com/strok/>

研究分野：音楽学

キーワード：A. ストローク 興行 音楽マネジメント 上海租界 アジアツアー ユダヤ人亡命者 大阪朝日会館

#### 1. 研究開始当初の背景

A ラトヴィア生まれのユダヤ人、A.ストローク、Awsay Strok は、1910 年代より 40 年以上の長きにわたり日本およびアジアの諸都市に欧米の一流演奏家、舞踊家を招聘し続けた興行主(インプレサリオ)である。近年、国内外の洋楽受容史研究の高まりにより、ストロークのマネジメントに言及する研究も増えている。しかし、彼自身の正確な足跡や、興行の詳細については不明な点が多く、名前や出自ほかの基本情報すら誤った情報が引用され続けていた。さらに、日本ではストロークが日本で公演をマネジメントしていたという誤解も存在した。日本はアーティスト達のアジアツアーの一拠点にすぎず、上海や東南アジア港湾都市を巡業するツアーこそがストロークの興行のスタイルであった。まずは、彼の生地をはじめとする各国で一次資料を調査し、彼自身の基礎的情報を確定すること、そして上海発行の各国語新聞を精査することで、ストロークの生涯と興行活動の全容を明らかにしようとした。

#### 2. 研究の目的

当研究は、ラトヴィアから極東、上海に亡命したユダヤ人興行主、Awsay Strok のマネジメント活動の実態を明らかにすることを目的としている。ストロークの本拠地、上海で発行された英字新聞をはじめとする各国語新聞や日本公演のプログラム、直系の子孫による証言などにもとづく一次資料を徹底して調査することを通して、彼の興行活動の地域的広がりや、1910 年代から戦後にかけての長きにわたる興行活動の全容を明らかにすることを目的とする。それは「興行、マネジメント」という視点から近代日本洋楽史の再検討を試みるものである。

#### 3. 研究の方法

ストロークが実施したアジアツアーについて、上海で発行された英字新聞、*The North China Daily News* をはじめとして仏語新聞 *Le Journal de Shanghai*、露語新聞 *Shanghai Zaria*、*Slovo* など新聞資料に掲載された公演広告や記事にもとづき、いつ、どこで、どのような公演を行ったのかを明らかにする。さらに直系の子孫による証言にもとづく一次資料を徹底して調査する。また、彼の生涯については生地、ラトヴィア、ダウガピルスおよびリガで現地資料調査を行う。さらに、ストロークが関わった日本公演プログラムを収集、整理し、興行活動の実態を明らかにする。公演プログラムは大阪音楽大学所蔵の大阪朝日会館公演ほかのプログラムであり、入場券や新聞記事、ポスター、寄贈写真なども含める。

#### 4. 研究成果

上海租界を中心に 1910 年代からおよそ 40 年間、音楽、バレエなど西洋芸術の興行活動を行ったユダヤ人興行主、Awsay Strok (1875-1956) について、その生涯と興行活動を明らかにすることを目的に現地調査、資料研究を実施した。

現地調査は彼の生地、ラトヴィア、ダウガピルスに始まり、上海租界の楽壇に関する一次史料を求めてフランス各地に及んだ。

これまで不明であったストロークの生年や生地を明らかにし、上海を拠点に実施された芸術家たちのアジアツアーの全貌を明らかにしようとして英、仏、露など各国語新聞、演奏会プログラムなどを精査した。結果として 1918 年から 1941 年までの 63 ツアーと戦後の 1951 年から 1955 年までの 7 ツアーを跡づけることができた。以上の研究成果はウェブサイト一般公開している。

URL:<https://ongakugaku2.wixsite.com/strok/>

この日・英二か国語ウェブサイトにはストロークの生涯と興行に関して、ツアー一覧表、写真、新聞記事、公演プログラム（大阪朝日会館）入場券など関連資料が掲載され、子孫から提供された貴重な肖像写真も公開されている。公演プログラムや入場チケットなどは大阪朝日会館公演に基づいているが、それらは中国・上海では戦争や革命によって、ほぼ失われているため、希少な公演資料である。

ストロークは国際的音楽、舞踊マネジメントの開拓者であり、彼によってアジアの聴衆ははじめて名演奏家の音楽に、レコードやラジオを通してではなく生の舞台公演で接することができたのである。芸術音楽と舞踊において東洋と西洋の架け橋としての役割を果たし、アジア各国の音楽受容史に大きな影響を与えた。しかしながらこれまで彼の生涯や活動について不明な点が多く、誤った情報が繰り返し引用され続けてきた。本研究によって初めて一次資料にもとづくストロークのアジアツアーの実態が明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 井口淳子
2. 発表標題 外地、ハルビン、上海から戦後日本の楽壇とバレエ界への連続性
3. 学会等名 日本音楽学会西日本支部特別例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井口淳子
2. 発表標題 A. ストロークと原善一郎：日本の音楽マネジメント史を「外地」との関わりから読み解く
3. 学会等名 日本音楽学会第68回全国大会（京都教育大学）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 井口淳子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 音楽之友社	5. 総ページ数 236
3. 書名 亡命者たちの上海楽壇：租界の音楽とバレエ	

1. 著者名 井口淳子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上海音楽学院出版社	5. 総ページ数 197
3. 書名 流亡者們的楽壇：上海租界の音楽与芭蕾	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ウェブサイト A.Strok and his Asia tours URL:<https://ongakugaku2.wixsite.com/strok/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------